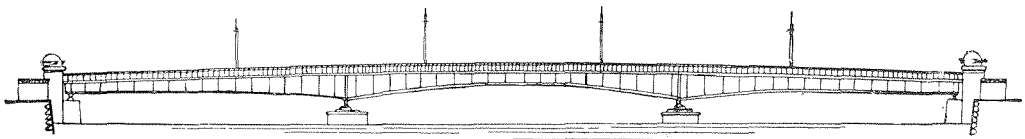


復興橋梁の最後を飾る

兩國橋は五月十八日 竣工開通した

兩國橋はむかし牛島の渡と稱し渡船を用ひてゐたもので、今より270年前に坪内藤右衛門、芝山權左衛門の二人が架橋の命をうけて萬治二年十二月開橋した。當時官名は大橋と稱され俗に兩國橋と呼んでゐた。兩國橋と云ふ名稱は林鴛峰の詩に「總州爲尾武藏爲頭」とある様に下總武藏の兩國に跨ると云ふところから來てるらしいが、當時隅田川が果して兩國の境界であつたかどうかは分らない。何れにせよ當時の俗稱が今日の公名となつたのは面白い。

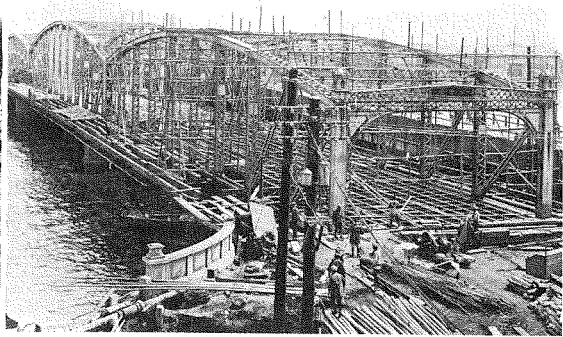
兩國橋側面圖



）新裝の兩國橋全景（日本橋側より）

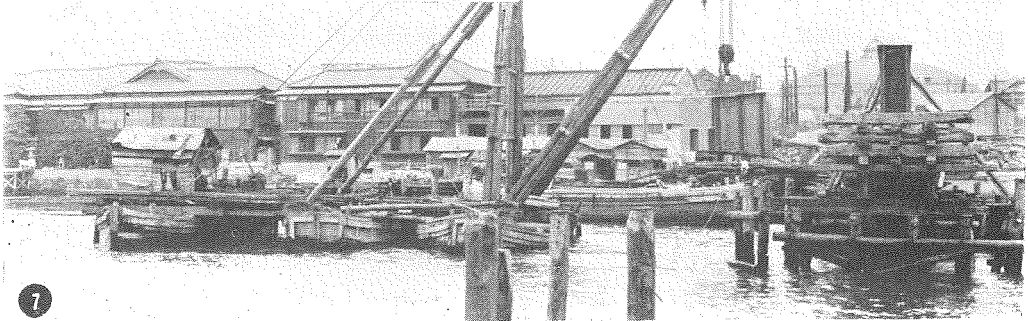
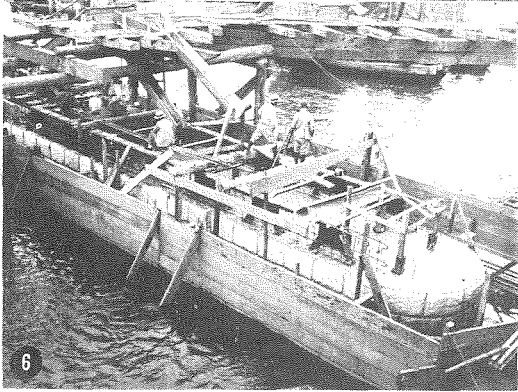
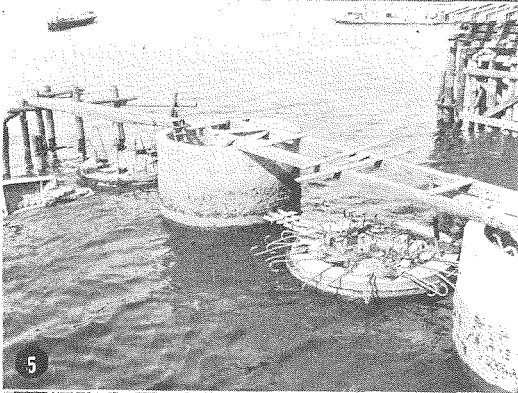
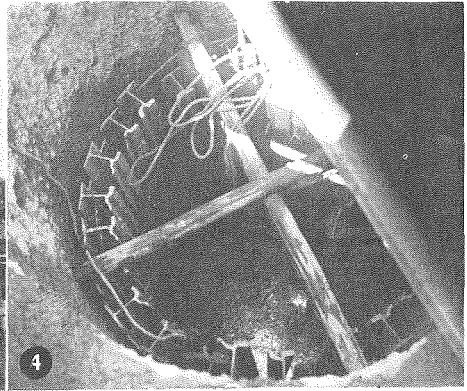
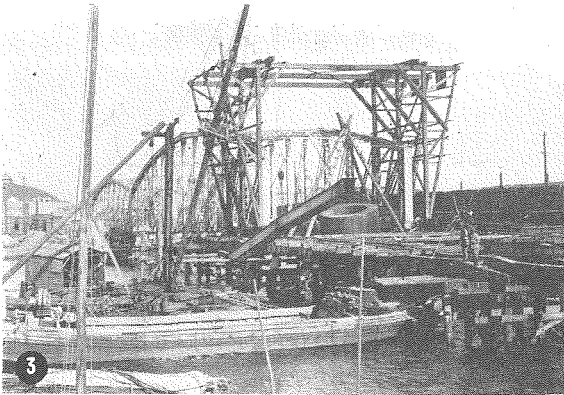


）舊兩國橋 明治37年11月竣工したもので當時
總工費311,580餘圓を費した。フラット型鋼鐵
下路構橋で使用鋼材 870噸は全部英國より輸
入、原龍太郎技師設計、石川島造船所製作、
原木仙之介氏が架設した。

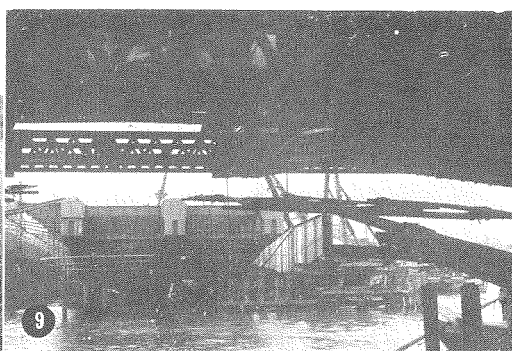
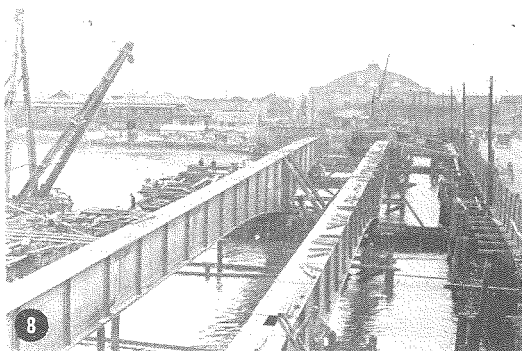


新 装 の 兩 國 橋 は

位 置	自日本橋區元柳町 至本所區横綱町	杭打	
型 式	突桁式鋼桁橋	橋 脚	主體 鐵骨混凝土、基礎 鐵 筋混凝土井筒（1部舊井筒利 用）
徑 間	三 徑 間	鐵 桁 總 噸 數	2,579噸
橋 長	164米5	總 工 費	864,100圓
橋 幅	24米	起 工	昭和5年2月
內 軌 道	5米6	竣 工	昭和7年5月
車 道	5米4	施 工 者	東 京 市
步 道 各	3米81	請 負 人	間 組
橋 面	軌道石塊鋪裝、車道木塊鋪裝 歩道モルタル仕上	鐵 桁 製 作	石川島造船所
橋 臺	主體 鐵筋混凝土造、基礎		



- (3) 兩國橋に於ける舊橋撤去並に橋脚基礎井筒カーブシユール据付作業、シユールは最初現場で組立てる豫定だったが、石川島造船所で組立て現場へ曳航した。
- (4) 舊橋脚井筒補強工事、舊橋脚井筒は當初はそのまま使用する計畫であつたが、内部を削り抜き古軌條を挿入して之を補強した。
- (5) 沈下を終へた井筒、四基のうち低い方が新に沈下した井筒である。
- (6) 橋脚軀體石張及混泥土工事 井筒の沈下が終ると鐵骨で相互に之を連絡し外部に石を貼り立て内部に混泥土を打つた。
- (7) 橋臺及橋脚工事が完成すると、鐵桁架設を開始した。桁架用ステーシングは桁四連に對しそれぞれ設けなくて、上流側に一連分だけ設け、此處で組立てを終つたものを順次、トロッパーで下流側へ送り込んだ。



(8) 鐵桁送り込み作業、上流側ステーシングの上で組立てられた鐵桁はトロリーによつて順次下流側に送られる。桁は兩側徑間と中央のカンチレバーになる部分だけを現場で組立てた。

(9) 兩側徑間と突桁の組立終らんとしてゐるところである。對岸の右端桁組中。

(10) 鐵桁は兩側徑間だけが現場で組立てられ、主徑間の中央部分は工場にて組立て五艘の船を連結して之を積み込み現場へ運搬して吊り上げた。寫眞は船積中の中央徑間鐵桁。

(11) 中央徑間鐵桁吊上作業中。

(12) 鐵桁の架設を終り床版鐵筋組立中の状況、遠方の丸屋根は國技館である。

(13) 完成した兩國橋の一部、中央徑間カンチレバー部分と單桁との接合點である。

